

第2学年

令和元年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

柔道整復科

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	心理学	曜日・時間	月曜日・2時限

【授業概要・目標】

人間理解のための「心の構造と機能」の基本的研究の成果を講じ、医療現場におけるクライアント理解のためのコミュニケーション心理学を言語研究の領域からアプローチする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	心理研究の歴史展開	1	学習と記憶の過程
2	脳機能の概略	2	学習と記憶の過程
3	脳と心の関係	3	言語の発達と心理的変容
4	脳と心の進化と発達	4	思考と言語表現の関連
5	脳と知覚・感覚	5	言語コミュニケーション
6	体格の研究の歴史	6	非言語コミュニケーション
7	性格の構成要素	7	対人コミュニケーション
8	性格の検査方法	8	対社会（集団）コミュニケーション
9	性格検査（テスト）の実際	9	情報社会におけるコミュニケーション
10	知能の研究の歴史	10	心理的正常と異常
11	知能の構成要素	11	心理障害と心理療法
12	知能の測定方法	12	心理障害とカウンセリング
13	知能検査（テスト）の実際	13	カウンセリングの理論と実際
14	学習の研究の歴史	14	心身医学と心理学
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験の成績による評価
授業の進め方	講義において、DVD（VTR）視聴、簡易実験、検査（テスト）を実施。
注意（学生に望むこと）	配布される資料・図版等のプリント類は、毎時持参すること。
使用テキスト・参考書	テキストは印刷物として配布。参考書は

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	社会学	曜日・時間	金曜日・2時限

【授業概要・目標】
 社会学の基礎概念を学び、それを医療と関連づけて考えることにより、医療者の社会的責任を自覚する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	社会学とはどんな学問か	1	働き方と健康 (1)
2	社会学が生まれた背景	2	働き方と健康 (1)
3	前近代社会、近代社会、現代社会	3	患者の視点
4	社会学の基礎概念 (1)	4	病の語り
5	社会学の基礎概念 (2)	5	患者—医療者関係
6	社会学の視点 (1)	6	家族の介在
7	社会学の視点 (2)	7	医療専門職
8	保健医療と社会学 (1)	8	性とジェンダー
9	保健医療と社会学 (2)	9	家族と健康
10	健康と病気のとらえ方の変遷	10	福祉国家と保健医療 (1)
11	新しい健康観・病気観	11	福祉国家と保健医療 (2)
12	社会的格差と平等	12	福祉国家と保健医療 (3)
13	社会的格差と健康 (1)	13	福祉国家と保健医療 (4)
14	社会的格差と健康 (2)	14	現代医療の課題
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前・後期末に筆記試験を行い評価する。
授業の進め方	教科書に沿って講義を行う。
注意 (学生に望むこと)	普段から社会のことに興味を持って欲しい。
使用テキスト・参考書	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	病理学概論	曜日・時間	金曜日・1 時限

【授業概要・目標】

疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深めることを目的とする。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	授業概要・病理学とは	1	進行性病変 1
2	疾病の一般・病因論 1 (病因の一般・内因)	2	進行性病変 1
3	病因論 2 (内因)	3	炎症 1
4	病因論 3 (内因)	4	炎症 2
5	病因論 4 (外因)	5	炎症 3
6	病因論 5 (外因)	6	免疫 1
7	病因論 6 (外因)	7	免疫 2
8	病因論 7 (外因)	8	免疫 3
9	細胞障害 1 (定義・萎縮・変性)	9	腫瘍 1
10	細胞障害 2 (代謝障害と疾患)	10	腫瘍 2
11	細胞障害 3 (老化・壊死・死)	11	腫瘍 3
12	循環障害 1 (血液の循環障害：充血・うっ血・虚血)	12	腫瘍 4
13	循環障害 2 (出血・止血・血栓症)	13	先天性異常
14	循環障害 3 (塞栓症・梗塞、リンパの循環障害)	14	運動器の病理
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験(筆記試験)により基本的に評価を行うが、小テスト、出席および授業態度などを考慮し、これらを平常点として加味して総合的・相対的な評価を行うものとする。
授業の進め方	教科書とスライドおよび配布プリントを用いて授業を進める。必要に応じ、小テストを適宜行う。
注意 (学生に望むこと)	病理学を学ぶ過程で、関連する解剖学的、生理学的な内容を復習、確認し、全体として理解を深めることにつなげてほしい。
使用テキスト・参考書	テキスト：病理学概論 第3版 (医歯薬出版) 参考書等については、必要に応じて説明する。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	運動学	曜日・時間	水曜日・3時限

【授業概要・目標】
柔道整復師として必要な運動器の構造と身体運動に関する知識の習得を目標とする

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	運動学の領域と目的・身体運動と力学	1	足関節と足部の構造と運動①
2	運動器・神経の構造と機能	2	足関節と足部の構造と運動①
3	上肢帯の構造と運動	3	体幹と脊柱の運動①
4	肩関節の構造と運動①	4	体幹と脊柱の運動②
5	肩関節の構造と運動②	5	体幹と脊柱の運動③
6	肘関節と前腕の構造と運動①	6	体幹と脊柱の運動④
7	肘関節と前腕の構造と運動②	7	顔面および頭部の構造と運動
8	手関節と手の構造と運動①	8	姿勢①
9	手関節と手の構造と運動②	9	姿勢②
10	股関節の構造と運動①	10	歩行①
11	股関節の構造と運動②	11	歩行②
12	膝関節の構造と運動①	12	運動発達
13	膝関節の構造と運動②	13	運動学習
14	前期講義のまとめ	14	後期講義のまとめ
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	試験の点数・レポート課題・出席状況等により総合的に判断する
授業の進め方	テキストと配布資料等を用いて行います
注意（学生に望むこと）	各回ごとに資料を配布するのでファイル等で管理すること
使用テキスト・参考書	運動学（医歯薬出版）

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	一般臨床医学 I	曜日・時間	水曜日・2時限

【授業概要・目標】

診察の概要について、その方法・内容の学習し、柔道整復臨床において注意すべき病態・状態を把握できるようになる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	診察の意義、医療面接	1	生命徴候① 体温
2	視診① 意義と方法、体型・体格、体位・姿勢、	2	生命徴候① 体温
3	視診② 栄養状態、精神状態	3	生命徴候③ 脈拍、呼吸
4	視診③ 異常運動、歩行	4	感覚検査 総論、表在、深部、複合他
5	視診④ 皮膚の状態	5	反射検査① 総論 意義 表在反射
6	視診⑤ 頭部・顔面、頸部	6	反射検査② 深部反射、病的反射
7	視診⑥ 胸部、腹部、背部・腰部	7	反射検査③ クロウヌス 自律神経
8	視診⑦ 上肢	8	臨床症状① 発熱 出血傾向
9	視診⑧ 下肢	9	臨床症状② リンパ節 意識障害
10	打診	10	臨床症状③ チアノーゼ、浮腫
11	聴診	11	臨床症状④ 関節痛
12	触診① 意義、皮膚・皮下組織、筋肉	12	臨床症状⑤ 肥満、やせ
13	触診② 骨・関節、胸部、腹部、リンパ	13	検査法
14	予備日(復習)	14	予備日(復習)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	プレゼンテーションと板書を活用し講義形式で行う。
注意 (学生に望むこと)	予習をすること(最低でも教科書を読み、判らない用語を調べる)。復習用プリントを配布するので、活用すること。
使用テキスト・参考書	『一般臨床医学』

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	一般臨床医学Ⅱ	曜日・時間	月曜日・1時限

【授業概要・目標】

内科学一般を講義する。各疾患の症状・診断・治療を聴いても、単なる羅列にしか聞こえないのであるが、出来るだけ、病態の成立機構と関連付けて理解できるよう努めたい。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	呼吸器疾患（症候、感染症）	1	内分泌疾患（甲状腺・副腎疾患）
2	呼吸器疾患（閉塞性疾患、がん）	2	内分泌疾患（甲状腺・副腎疾患）
3	呼吸器疾患（塞栓症・気胸）・循環器疾患（症候・心不全）	3	血液疾患（リンパ腫・出血性素因）
4	循環器疾患（虚血性疾患・不整脈）	4	腎・尿路疾患（腎不全・透析）
5	循環器疾患（弁膜症・先天性疾患）	5	腎・尿路疾患（糸球体疾患）
6	循環器疾患（高血圧・動静脈疾患）	6	腎・尿路疾患（泌尿器疾患）
7	消化器疾患（症候・食道疾患）	7	神経疾患（症候）
8	消化器疾患（胃・腸疾患）	8	神経疾患（脳血管障害・脳腫瘍・脳感染症・てんかん）
9	消化器疾患（肝臓・胆道疾患）	9	神経疾患（脳変性疾患）・感染症（総論）
10	消化器疾患（膵・腹膜疾患）	10	感染症（各組織の感染症）
11	代謝疾患（糖尿病）	11	感染症（性行為感染症・ウイルス感染症）
12	代謝疾患（肥満症）	12	自己免疫疾患（関節リウマチ・SLE）
13	内分泌疾患（症候・下垂体疾患）	13	自己免疫疾患（皮膚・筋の疾患、アレルギー）
14	前期範囲の過去国試問題の検討	14	後期範囲の過去国試問題の検討
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	出席と試験
授業の進め方	プリントを配布説明し、一部を板書する。
注意（学生に望むこと）	とにかく話を聴いてください。不足分は、インターネット検索で、かなりの情報を集められます。
使用テキスト・参考書	全国柔道整復学校協会 監修「一般臨床医学」医歯薬出版株式会社／（COMEDICAL用として）「シンプル内科学」寺野彰 編集 南江堂、7,020円／「わかりやすい内科学」井村裕夫 編集 文光堂 9,000円

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	医療概論	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】
日本の医学の歴史(柔道整復師、柔道を含む)を学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1		1	医学の芽生え
2		2	医学の芽生え
3		3	中世の暗黒時代
4		4	ルネサンス—解剖学の夜明け
5		5	ヴェサリウスとファブリカ
6		6	17世紀—物理・科学との融合
7		7	顕微鏡の発明、フックとニュートン
8		8	中国医学と陰陽五行説
9		9	病理解剖学の父モルガーニ
10		10	日本医学の歩み①
11		11	日本医学の歩み②
12		12	日本医学の歩み③
13		13	柔道と柔道整復の歴史
14		14	柔道と柔道整復の歴史
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検	15	

評価の方法	
授業の進め方	
注意（学生に望むこと）	
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編、その他資料随時配布

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	柔道Ⅱ	曜日・時間	木曜日・1時限

【授業概要・目標】

柔道Ⅰに引き続き「投の形」の精度を上げ、乱取り練習を取り入れて授業を進めます。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	柔道実技の目標、昇段試験について	1	柔道実技の目標、授業について
2	礼法、受身、投の形復習及び練習	2	柔道実技の目標、授業について
3	投の形 手技一①(浮落)指導、練習	3	投の形 腰技3本指導、練習
4	投の形 手技一②(背負投)指導、練習	4	投の形 足技3本指導、練習
5	投の形 手技一③(肩車)指導、練習	5	乱取り実技指導、練習一①
6	投の形 腰技一①(浮腰)指導、練習	6	乱取り実技指導、練習一②
7	投の形 腰技一②(払腰)指導、練習	7	乱取り実技指導、練習一③
8	投の形 腰技一③(釣込腰)指導、練習	8	認定実技審査内容の指導、練習一①
9	投の形 足技一①(送足払)指導、練習	9	認定実技審査内容の指導、練習一②
10	投の形 足技一②(支釣込足)指導、練習	10	認定実技審査内容の指導、練習一③
11	投の形 足技一③(内股)指導、練習	11	認定実技審査内容の指導、練習一③
12	前期実技試験内容説明、練習	12	後期実技試験内容説明、練習
13	前期実技試験一①	13	後期実技試験一①
14	前期実技試験(予備日)	14	後期実技試験(予備日)
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検実技試験評価点検、柔道の歴史や変遷	15	

評価の方法	実技試験、授業態度、出席日数にて総合評価する。
授業の進め方	前期:「投の形」の高度な習得に重点を置きます。後期:認定実技審査に対応しての指導をします。
注意(学生に望むこと)	柔道実技では怪我をしないように毎回真剣に取り組むことを望みます。
使用テキスト・参考書	「投の形」と投技(乱取り)は講道館のDVDおよびビデオを使用します。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	柔道整復応用理論 I	曜日・時間	水曜日・4時限

【授業概要・目標】
テキストを基に理論、実技の習得。これに並行し同範囲の解剖知識の復習を徹底する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション、上肢の解剖	1	前腕骨近位端部骨折
2	鎖骨骨折	2	前腕骨近位端部骨折
3	鎖骨骨折	3	前腕骨骨幹部骨折
4	鎖骨骨折	4	前腕骨骨幹部骨折
5	鎖骨骨折	5	前腕骨遠位端部骨折
6	肩甲骨骨折	6	前腕骨遠位端部骨折
7	上腕骨近位端部骨折	7	前腕骨遠位端部骨折
8	上腕骨近位端部骨折	8	手指の骨折-1 解剖
9	上腕骨骨幹部骨折	9	手指の骨折-2 手根骨
10	上腕骨骨幹部骨折	10	手指の骨折 - 3 中手骨
11	上腕骨遠位端部骨折	11	手指の骨折 - 4 指骨
12	上腕骨遠位端部骨折	12	手指の骨折 - 5 マレットフィンガー
13	実技評価	13	手指の骨折 - 6 後療法
14	実技評価	14	実技評価
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期、後期筆記試験、実技試験、小テスト（実力試験）、授業態度、日常態度全てにかんがみて判断する。
授業の進め方	教科書を中心に進める。
注意（学生に望むこと）	日常における予習復習の励行。授業に関係なしにどん欲に様々な医療知識を吸収しようという姿勢を期待する。
使用テキスト・参考書	柔道整復学 理論編

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	柔道整復応用理論Ⅲ	曜日・時間	月曜日・3時限

【授業概要・目標】

下肢の骨折、脱臼について理解を深め、柔道整復師国試に合格すること。合わせて、医療人としての素養を身につけること。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	骨盤骨単独骨折	1	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
2	骨盤骨輪骨折	2	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
3	骨盤骨輪骨折	3	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
4	大腿骨近位端骨折	4	足根骨骨折
5	大腿骨近位端骨折	5	足根骨骨折
6	大腿骨骨幹部骨折	6	足根骨骨折
7	大腿骨遠位端骨折	7	中足骨骨折
8	大腿骨遠位端骨折	8	足指骨骨折
9	膝蓋骨骨折	9	股関節脱臼
10	下腿骨近位端部骨折	10	股関節脱臼
11	下腿骨近位端部骨折	11	股関節脱臼
12	下腿骨骨幹部骨折	12	膝蓋骨脱臼
13	下腿骨骨幹部骨折	13	膝蓋骨脱臼
14	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折	14	足部の脱臼
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期、後期のペーパー試験、実技試験、出席日数、授業態度など総合的に評価をする。
授業の進め方	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編、パワーポイントを使用し、実技などと、小テスト等を行いながら進めていく。
注意（学生に望むこと）	授業前にノートを作成し、予習、復習をすること
使用テキスト・参考書	柔道整復学実技編を持参のこと

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	柔道整復応用理論Ⅳ	曜日・時間	月曜日・4時限

【授業概要・目標】
柔道整復に必要な体の構造・機能を習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	人体の構造・機能 - 1	1	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-1
2	人体の構造・機能 - 2	2	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-1
3	人体の構造・機能 - 3	3	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-3
4	人体の構造・機能 - 4	4	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-4
5	人体の構造・機能 - 5	5	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-5
6	人体の構造・機能 - 6	6	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-6
7	人体の構造・機能 - 7	7	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-7
8	人体の構造・機能 - 8	8	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-8
9	人体の構造・機能 - 9	9	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-9
10	人体の構造・機能 - 10	10	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-10
11	人体の構造・機能 - 11	11	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-11
12	人体の構造・機能 - 12	12	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-12
13	人体の構造・機能 - 13	13	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-13
14	人体の構造・機能 - 14	14	人体の構造・機能 - 15 柔整基礎-14
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価・点検	15	

評価の方法	小テスト、筆記試験、課題、授業態度
授業の進め方	講義、作業
注意（学生に望むこと）	小テストを実施するので毎回復習をすること。また課題も出すので期日までに提出すること。
使用テキスト・参考書	解剖学、柔道整復理学理論編

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 2年 -
科目名	手技療法Ⅱ	曜日・時間	水曜日・1時限

【授業概要・目標】

軟部組織損傷の基本的な知識、治療に必要な鑑別法を習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	身体診察・計測	1	腰部-1
2	関節可動域	2	腰部-1
3	頸部-1	3	股関節・大腿部
4	頸部-2	4	膝-1
5	肩部-1	5	膝-2
6	肩部-2	6	下腿部・足部-1
7	肘部-1	7	下腿部・足部-2
8	肘部-2	8	腰・下肢：鑑別法-1
9	前腕・手指	9	腰・下肢：鑑別法-2
10	頸・上肢：鑑別法-1	10	腰・下肢：鑑別法-3
11	頸・上肢：鑑別法-2	11	症例検討-1（上肢）
12	頸・上肢：鑑別法-3	12	症例検討-2（上肢）
13	頸・上肢：鑑別法-4	13	症例検討-3（上肢）
14	実技試験	14	実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	口答・実技・筆記試験、その他、出席、授業態度、レポート提出の総合評価とする。
授業の進め方	授業のテーマを予習（ノート作成）、授業でポイントを確認しながら実技の習熟度を高めていく。
注意（学生に望むこと）	積極的に課題に取り組み、構造や関節の動きを理解すること。繰り返した実技練習に取り組むこと。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編、問診診察ハンドブック、解剖学教科書

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復科2年
科目名	臨床実習①	曜日・時間	火木金・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復科2年
科目名	臨床実習②	曜日・時間	火木金・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし